新聞　（第3種郵便物認可）

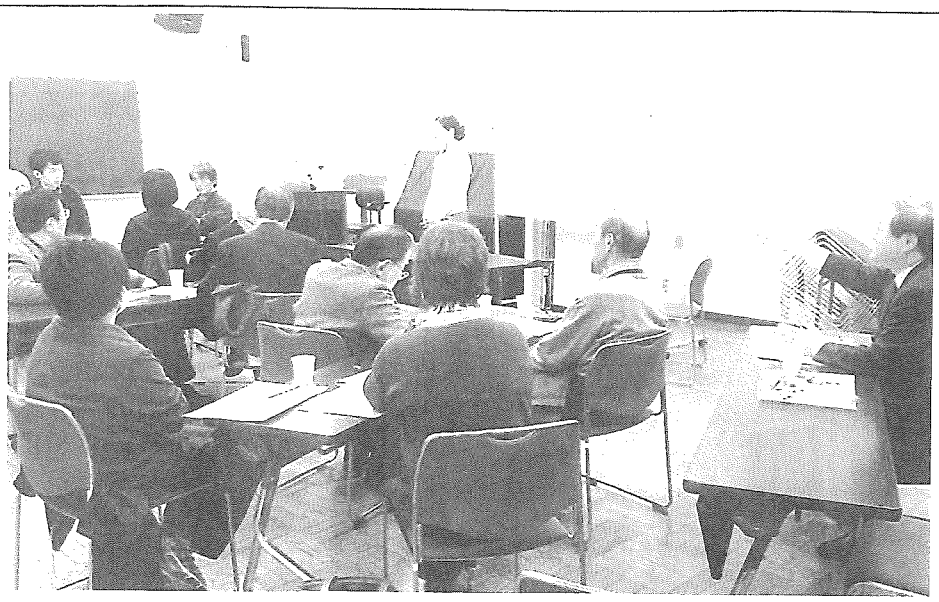
候補者よく知りたい

アンケート、通信簿、公開討論

（東京新聞 4/3）

あなたの議会みち

❶面参照



統一選に向けて議員や議会のことを知ろうと文京区民が開いた「みらくるカフェ」＝東京都文京区で（みらくるネット提供）

㊥ 議員の考え

「選挙に行かなきゃという思いはあっても、誰に入れたらいいのかよくわからなかった」。東京都文京区民となって初の統一地方選を前に、八木晶子さん（四〇）は、気持ちがもやもやしていた。子育て仲間と話すうち、思いは同じとわかった。

「候補一人一人のことをちゃんと知って選びたい」。そんな思いから今年一月、有志で「未来の文京区をひらく区民のゆるやかなネットワーク」（みらくるネット）を立ち上げた。設立メンバーは主婦や元会社員ら男女五人。集会所などで政治を身近に考えるカフェを開いた。

区議会のホームページ（HP）では議案への賛否は会派単位でしか公開されていない。周りの区民百三十六人に、区議へ聞きたいことを尋ね、上位に挙がった「達成したい施策を具体的に一つ」「一人暮らしで地域とのつながりが持てない人がいたらどうするか」など四問を二月に質問。回答をHPで公開した。

結果を語り合う会も三月に開いた。「一人一人こんなに違うんだ」「自公は政党ごとに全員同じ回答。政党の方針が強いんだ」「キャッチフレーズと行動がずれてる人がいる」「地域に根差すことより、政界でのステップアップを優先してる」「投票しっぱなしじゃダメだね」

知りたいことが次々と湧いた。「議会は投票の結果。選挙に行かずに意見しても聞いてもらえない。行動しないと」。八木さんらは、新人候補にもアンケートを取り、区議選告示前後にネット公開する予定だ。

◇

「市民の目があることで、議員は姿勢を正す」。二〇一一年に行われた前回の東京都多摩市議選まで三度、議員の「通信簿」を作成、公表してきた「ウオッチング多摩の会」の神津幸夫代表（七五）はそう語る。

一一年の通信簿は、会員八人で年四回の定例会などを四年間傍聴。市議二十六人の「政策提言度」「行政チェック力」「説明・説得力」など五項目を五十点満点で採点。顔写真入りで、「良くやっている」「まあまあ」「不満」など五段階の評価も載せた。市議からは「主観的で一部の活動しか見ていない」と反発もあった。神津代表は「公平に判断するには、市民に見える議会での活動を評価するしかない」と説明する。

「投票の判断材料にしてほしい」と、図書館などの公共施設や駅頭で五千五百部を配布したが、投票率は46・78％と前回より1・17ポイント減少した。今回の選挙は立候補予定者の意見を聞き比べようと、通信簿はやめ、公開討論会を開く。

早稲田大学マニフェスト研究所の中村健事務局長は「ごみ袋の値段からLGBT（性的少数者）まで、複雑で細かく多様な課題を話し合うのが地方議会。各議員の議案への賛否の公開は当然で、本来は、なぜ各議員がそう考えたのか過程も知りたい」と指摘する。

「（筋書き通りで）学芸会」などと片山善博元鳥取県知事らからやり玉にあげられ、地方議会の情報公開は前回の統一選以降進んだ。本会議などの動画放映も広がった。「けれど、まだこれから。インターネットの双方向性を生かせば議会の議論に住民を巻き込むこともできる。みなさんの意識にまで届くよう、きめ細かな工夫が必要だ」

（井上圭子、村松権主麿）